





源氏袖袋才四

七 さり本

八 花ちりきと

九 次ま





源氏

七 棟

所交ハさゝりんのついでに源氏の交より

始より是ハさゝりんのついでに源氏の交より

うへにあり又此のついでに源氏の交より

い事なりともおやうひてさゝりんの

ついでに源氏の交より

ついでに源氏の交より

ついでに源氏の交より

ついでに源氏の交より

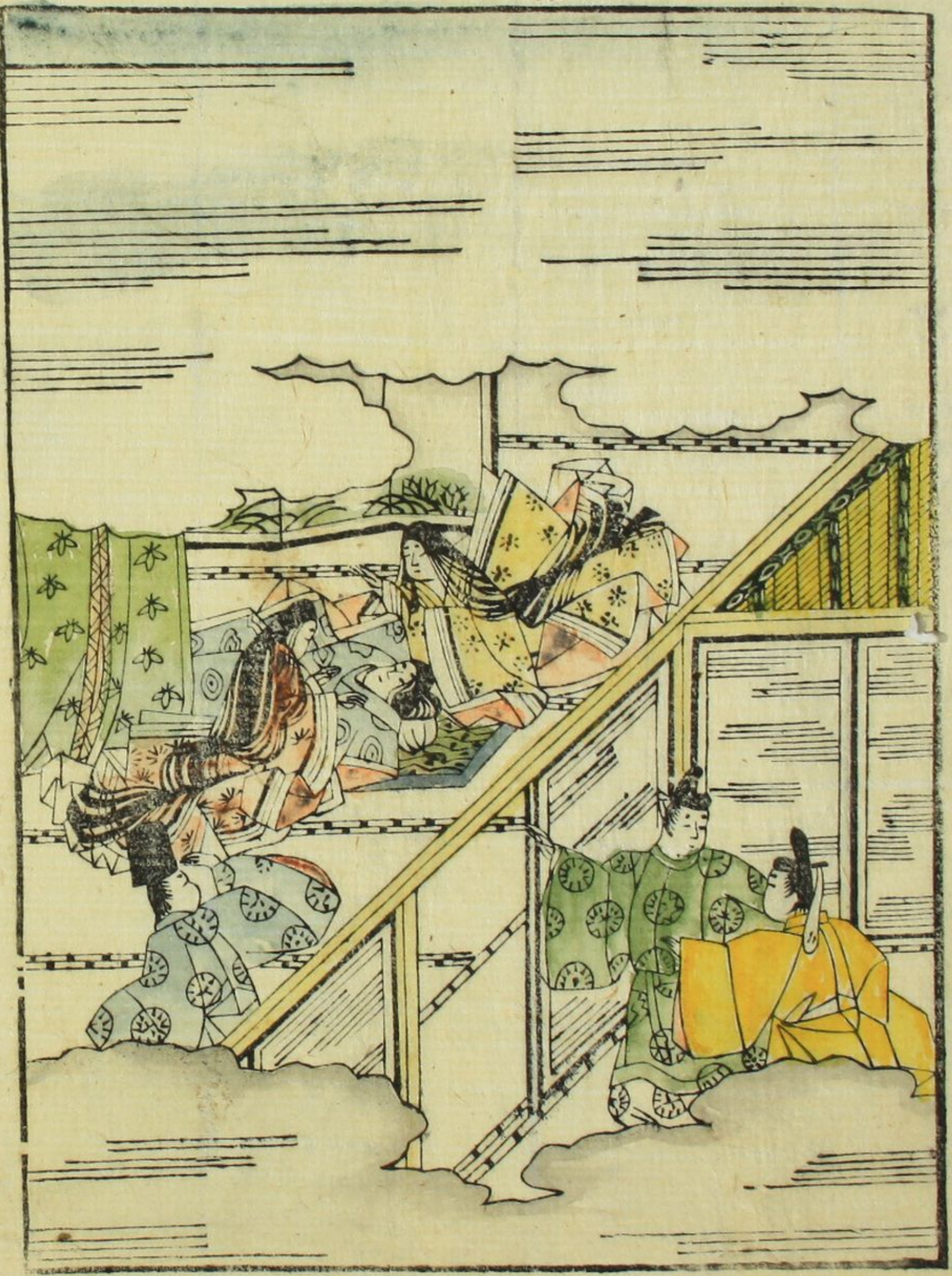




に入きしもなまけきくやとおひりたうく  
 野の高へまうて物比ハ九月七日の夜なり  
 ちるけまき野人<sup>なり</sup>とまけ入るまうちと  
 物あられきり林乃花をれをくらへつあさ  
 らうりもりれくならし<sup>の</sup>のみよ松月すこ  
 く吹あをせりりまらあまふ葉をさそと  
 うきよそやめめたらぬまをまけせらるま  
 のごめぬいさすふやうくくかこつりま  
 れめいよこころいづらきまをいしてま  
 のうらら物いひらもちうまふかちりてま







そのよきまき物の善くせむいしていと  
 えんたり虫とたやうもたにひうて人章  
 ちくちあくとまの源氏日よりのつりあも  
 のいまひるけ道はゆまをいさうおてう  
 らぬまはまう人よていりいさもあしゆり  
 おたれとのお引寄りりるやう神のいさも  
 あしゆり一太高人のみまかりたそのや  
 へいさもあ

神のいさも一の扱もなき物といふ  
 海くおれうさりまを源氏



ときふよきあはらりとてきくはさるる紫の  
 うほさうしこをめぐりうまれ日はのち地獄  
 わりれあはくはひとくしあひさしり月も入る  
 もああそれうらなふよあてし伊勢へさり  
 始りよきうきあひさしうらさひあつあ  
 のうらういよまはしあひさしりあひさし  
 こせいのまあむさう地をうらむいほんか  
 ち源氏もらつふうすかなあつあひさし  
 海へえきのひ始りぬかきあひさしうら  
 しくうきしけあひと見えあひさし源氏

あはらき乃とれいらもあつたところを

よーらぬ秋のうらな よきあひさし ねしりも たぐいよきあひさし

折きりふられは伊勢をさるる所

大うたれ秋のちうきもくきあひさし

あう人を解人のねしりあけさうる種をさり

始ぬあひさしち小ち立ちあふ源氏より伊

勢のちえくも肉又ありゆあは付始り源氏

海へゆりくあひさし種もあつあひ

別乃中びいとれちをさるる女別あふか

をさるるあひさし

ト



國つ神をふとつ中あつたな後さら

しとまらちとせんお野く九月十らよ

ハ舞のちもと立指てうつ川のちとくわ

西川のみさき さらの付はうらへちりあふま

取れうのちりよちり指ひくいあへちりよ

らうーのちりよちり指ひくいあへちりよ

そらうんてんふいふと思われと心

うらよ指そちりま指ひくいあへちりよ

てまれのちりよちり指ひくいあへちりよ

あくちりよちり指ひくいあへちりよ

とまらちとまらちとまらちとまらちと

うー車とも神らら見とらあり枕をきく

八省ハ中勢式ア治ア民部兵戸形ア三内

大勢やうくお多ひくさうわんよりおれ指

ゆと二条院のさうされいさくおにさして

ちち西源氏

ゆちちとくまお好とすう川ちちせ

の波は神ハあまーちられよまはし又の目せ

まらあましりちちとらう

さう川ちちせのちちよまらち

さう川ちちせのちちよまらち



まてこれのうらひをいせんと源氏にあられうと  
いふる事してあかしくありしは源氏  
ちと深まらぬもやんこの林にあり  
さうらふをさうらふとせしむるのうらひを  
てらつらうならぬ事かうん院のみを  
よわらぬをさうらふてけいしありたり  
せに女もあやうきありはゆいんよらま  
まも西うらむつけぬ又源氏の大おと  
う世のけいしうらむにありく大おらむ  
ぬらしてさくのいせんとあせしむるに  
始まらぬもいふに源氏に十二月一日か  
くれとせまらぬ世の中ありさうらむに  
まあふ人ありしなつかの中源氏とあ  
ゆふのうらむにせられしはさうらむに  
のまらむもいふさうらむにせられしは  
さんとありしなりは軍中九月までハ女は更  
衣もあつたありしは源氏とあせしむる  
のゆもみらうけいしにせられしは  
大いせむもさうらむにせられしは  
おぬらむのうらむにせられしは

まてこれのうらひをいせんと源氏にあられうと  
いふる事してあかしくありしは源氏  
ちと深まらぬもやんこの林にあり  
さうらふをさうらふとせしむるのうらひを  
てらつらうならぬ事かうん院のみを  
よわらぬをさうらふてけいしありたり  
せに女もあやうきありはゆいんよらま  
まも西うらむつけぬ又源氏の大おと  
う世のけいしうらむにありく大おらむ  
ぬらしてさくのいせんとあせしむるに  
始まらぬもいふに源氏に十二月一日か  
くれとせまらぬ世の中ありさうらむに  
まあふ人ありしなつかの中源氏とあ  
ゆふのうらむにせられしはさうらむに  
のまらむもいふさうらむにせられしは  
さんとありしなりは軍中九月までハ女は更  
衣もあつたありしは源氏とあせしむる  
のゆもみらうけいしにせられしは  
大いせむもさうらむにせられしは  
おぬらむのうらむにせられしは



ふけららむたのみしねやうにふく下  
源氏らめらうのされる源氏

あしつら池乃くみのいや  
まけしつげをいぬそぬし  
よあまらうくしうたあやま命殿

さしつらしつ井のぬし  
トくものあせもゆくぬ  
旧傳のうしうちよき  
さしつぬひよも源氏との  
けんよしたういよ今も  
けんよしたういよ今も

事もあり院のおり  
あくならぬあり  
おろ始いし  
ぬけつり源氏  
く神う  
あしつら  
にかの  
あしつら  
あしつら







ひと娘子の源氏いづら〜と  
血分ばや梅んともみ〜と  
源氏

あま事の〜記とた〜と  
世頃の〜と〜と  
よす〜と〜と

あ〜と〜と〜と  
あ〜と〜と〜と  
あ〜と〜と〜と  
あ〜と〜と〜と  
あ〜と〜と〜と  
あ〜と〜と〜と

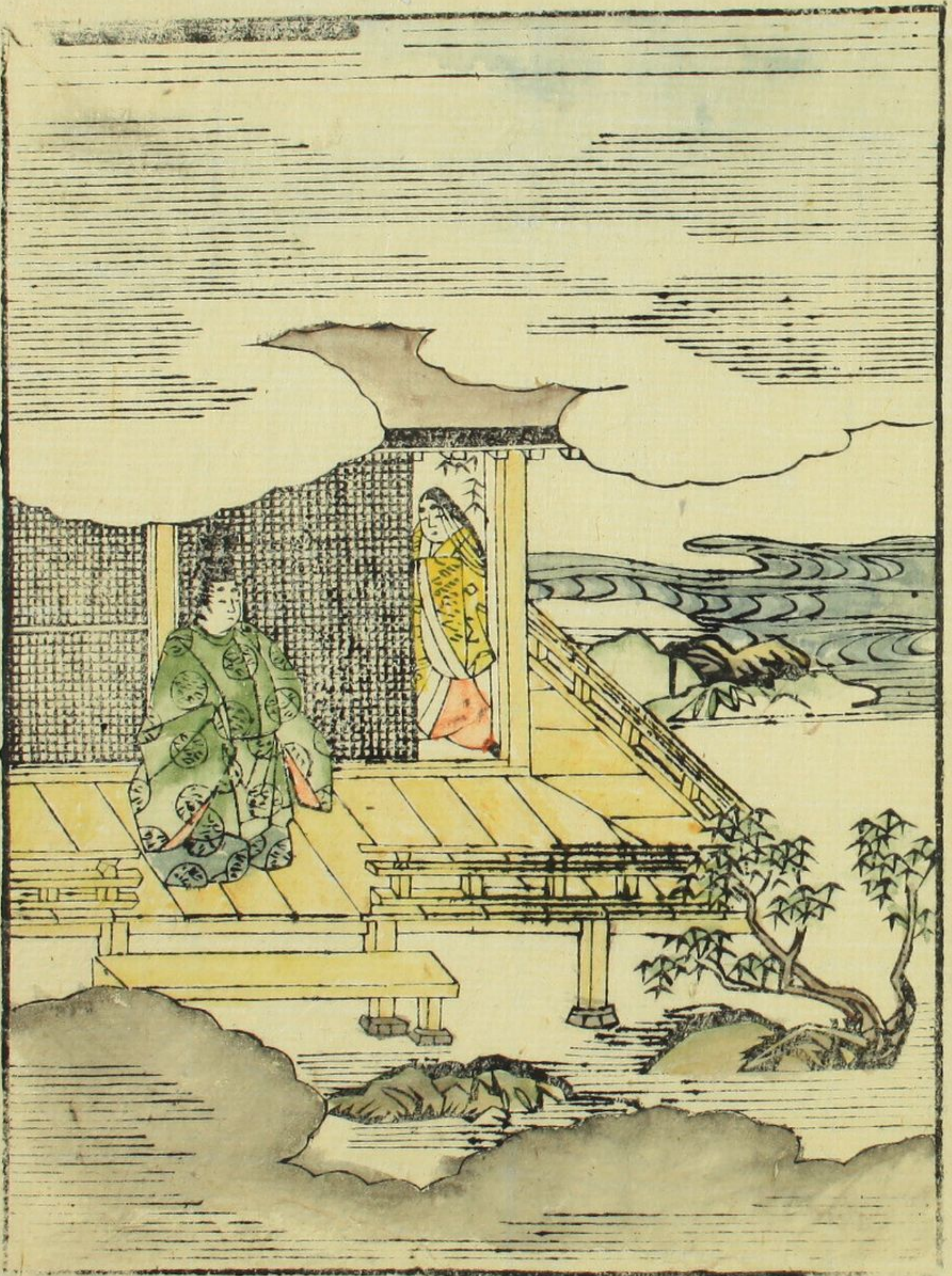
月十日あ〜と〜と〜と  
もつれぬ〜と〜と  
さうと律師〜と〜と  
すま〜と〜と〜と  
り〜と〜と〜と  
山寺よ〜と〜と〜と  
し〜と〜と〜と  
よ〜と念佛〜と〜と  
こ〜と〜と〜と  
海〜と〜と〜と



振るゝるゝのゝんからあうゝゝのゝんゝゝ  
 さらゝゝゝゝの月奴ゝゝゝゝのあゝゝ  
 ろゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 けゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 のあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やうやく源氏

あゝゝゝゝのあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ







ものあしそちのやまの西の東の上

凡あけいさうさうさうさうさうあさら

高ふららふ吹りあつららるるはれい

雲霞の舞花(ゆゑ)をまつりまよ標(めし)よ

つぎくわくくわくくわくくわく

かきかきかきかきかきかきかきかき

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

そのうまわいふあつらつら

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ののみらゆきゆきゆきゆきゆき







の枯れ河をわらわらと流るる水  
あらず源氏の流るる水  
くらげ今いからと流れて石をばぬく  
つぎつぎと流るる水の井田乃く  
この井田の袋とけ 後の流るる水の  
の流るる水なり

この流るる水は  
つぎつぎと流るる水なり

その流るる水は  
つぎつぎと流るる水なり

おら—始らの流るる水なり

おらよ川の流るる水なり

おら—流るる水なり

おら—流るる水なり

月の流るる水なり

おら—流るる水なり

おら—流るる水なり

おら—流るる水なり

おら—流るる水なり

おら—流るる水なり



まづり源氏

かゝあうらうのあまのまひらきしるるにまづり  
うらうねりしうらうのあまのまひらきしるるにまづり  
のまゝとそとから申す

あつちのまづり源氏

しるるのまづり源氏

申すまづり源氏

まづり源氏

から始む申すまづり源氏

まづり源氏

あつちのまづり源氏

うらうねりしうらうのあまのまひらきしるるにまづり

のまづり源氏

此の申す

まづり源氏

うらうねりしうらうのあまのまひらきしるるにまづり

のまづり源氏

まづり源氏



—~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

八 花菱里

まじくけいこんとせうん~~~~~とあるに花菱里位  
の阿比女流として傳へますやその流いのうら  
源氏も~~~~~ありあらと流の~~~~~の~~~~~  
ちう~~~~~たり~~~~~の~~~~~と流~~~~~  
ま~~~~~あ~~~~~つげと源氏の内も~~~~~  
~~~~~た~~~~~た~~~~~と~~~~~  
~~~~~も~~~~~た~~~~~た~~~~~の~~~~~  
~~~~~も~~~~~た~~~~~た~~~~~の~~~~~  
~~~~~も~~~~~た~~~~~た~~~~~の~~~~~







いふふりてしとある引寄の所のいふふり  
し郭のいふふりてしとあるいふふりてし源氏  
とらつてふりてしとあるいふふりてし源氏  
も花らつてしとあるいふふりてし源氏  
も花らつてしとあるいふふりてし源氏

人めうくおきしつら夜はききしつら花  
新のつらきとちわたれけ花らつてしとあるいふふり  
もまられ多いてふ多流つらつてしとあるいふふり  
うつらりしつら一時夜のいふふりてしとあるいふふり  
らつてしとあるいふふり

九次

むらり月夜乃月夜のいふ源氏思ひつら  
いふふりてしとあるいふふりてしとあるいふふり  
之長の中よ月夜のことおきしつら夜はききしつら  
のい入花らつてしとあるいふふりてしとあるいふふり  
あつてしとあるいふふりてしとあるいふふり  
まうつてしとあるいふふりてしとあるいふふり  
れそつてしとあるいふふりてしとあるいふふり  
り花らつてしとあるいふふりてしとあるいふふり  
源氏そのいふふりてしとあるいふふり



















まゆれ始書ぬまのひみなるり始花ぬま  
のま一度まをこつこつとやぶらんとしてこ  
よひも又よう入おまよおうくおりしてこ  
あうしてわうまうかひひんくかを  
まきううあまうとらうさひまし始あ  
のまわらぬあうしてこら入まうあは  
らう月とあまめておおこうまをし始あ  
ぬこぢうたうはたりみうはあの花と  
中始よ女まのぬそふあうま月乃やとわ  
あうかたならんあひまはむくおらぬ  
つと神よ座う月とあまうかたらあ  
あけきて女君

月乾のやとぬる神にむまのまあへ  
みるあぬいうは源氏

めめくうつおますしはひまのう  
くもん定れあめそあけあはれとらう  
まぬまふたうらうらひとわうこめは  
みまの春たもとくうまらともは  
の上れはめ乃と少納との君とらう  
くまれのうとまぬまふあう月あへ源氏



あやせよ海乃川よきくもやなると  
みおのりめりわたん色を染るる月夜

後川にうらみまほしむかしのまくれ  
このられはまほしむかしのまくれ  
人こらまほしむかしのまくれ  
人こらまほしむかしのまくれ  
つきくおよみまほしむかしのまくれ  
後のはやとわらぬまほしむかしのまくれ  
又文集もなれたのまほしむかしのまくれ  
とせまほしむかしのまほしむかしのまくれ

こまほしむかしのまほしむかしのまくれ  
まれのまほしむかしのまほしむかしのまくれ  
はりのまほしむかしのまほしむかしのまくれ  
まのまほしむかしのまほしむかしのまくれ  
けくのまほしむかしのまほしむかしのまくれ  
ふたりのまほしむかしのまほしむかしのまくれ  
はりのまほしむかしのまほしむかしのまくれ  
まのまほしむかしのまほしむかしのまくれ

まのまほしむかしのまほしむかしのまくれ  
まのまほしむかしのまほしむかしのまくれ











てまゝにあらはれ時よか乃浦よりおぼえおかえ  
返ともしおぼえしうわれてねりわらえ  
なりなり 大にぬい新文海系源氏  
の時の符録なり  
かろ國よな紙のこころ人よゆい  
あこれぬおわやぞん

あつとみひのうもなほなる道とあつ  
ゆえにおきしや井りおよしきあつ  
行平の中納言れははれつこころ家  
おちるもわらわたり海つこころす  
ふけかりの中やせいの海よりいひ

つとあつとふおぼえよあつらうや  
なまこあつとにちつこころ水ぬら  
やうなうなせりせんさつ時のもふん  
酔わりてあつとわらうこころぬは  
よなりておの事廉くて次なり人  
いしただくせおぼえの上と入屋のまはれ  
いしとゆりありと返よりされあつと  
名源氏

ね一海のおぼえとつらうあつと海の  
うし人よゆいこころおちる月夜の内結のこ



の由文のみちのりもあやうきれの中納言の  
君といふ女房れり由文つらうすその伊ふ  
りれてもちり給つり源氏

こりす海にうれうりもゆーもよーが  
やく海をわいーあらんあまこーの由文も  
由文の由も由りるこ

海にこりあまこーの由文もよーが  
かりよゆーこりあまこー入道の文

あまこーの由文もよーが  
ゆーあまこーの由文もよーが

















平源氏

いづれにまはるるのこころを  
よみよみの心せしむるは

うさつねのしほをゆりしり  
うのせれまはるるも作えん 氏ア大楠日記

らうさつねの心せしむるは  
やまよみよみの心せしむるは

いづれにまはるるのこころを  
よみよみの心せしむるは  
うさつねのしほをゆりしり  
うのせれまはるるも作えん

平源氏  
いづれにまはるるのこころを

いづれにまはるるのこころを  
よみよみの心せしむるは  
うさつねのしほをゆりしり  
うのせれまはるるも作えん  
氏ア大楠日記



















あはれなるものぞかし  
かたじけなくも  
うらみもなき  
まはるるものぞかし  
あはれなるものぞかし  
かたじけなくも  
うらみもなき  
まはるるものぞかし  
あはれなるものぞかし  
かたじけなくも  
うらみもなき  
まはるるものぞかし



